

○ タ イ ト ル : 第2回 北見地域のがん患者さん支援の充実に向けたセミナー2023

## アンケート

- 日 時 : 2023年9月12日(火)18:30~20:00
- 会 場 : 会場とのハイブリッド形式開催
- 対 象 : 北見地域の医療・介護関係者(オンライン参加は地域を問わず申し込み可)
- 参 加 費 : 無料
  
- 参 加 者 数 : 60名(会場26名、オンライン34名)
- アンケート回収数 : 40件

主 催 : 北海道保健福祉部地域保健課、北見市、北見医師会、北海道薬剤師会北見支部、北見地域介護支援専門員連絡協議会、北見市地域包括支援センター連絡協議会、北海道訪問看護ステーション連絡会北見地区、北見赤十字病院、北海道がんセンター(北海道がん診療連携協議会相談・情報部会事務局)、北海道医療ソーシャルワーカー協会がん治療とソーシャルワーク専門部会、北網保健医療福祉圏域連携推進会議 在宅医療専門部会 北見地域多職種連携チーム

共 催 : がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進するプロジェクト(#まるコラボ)

後 援 : 日本がんサポーターケア学会

日本癌治療学会／ファイザーの医学教育助成金「がん患者のためのチーム医療・地域医療連携の推進に対する取り組み」協力のもと開催

### プログラム

【開会あいさつ】北見市保健福祉部 地域包括ケア推進担当主幹 大貫 幸代

【イントロダクション】前回アンケートの振り返りと本セミナーのねらい

帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 渡邊 清高

【グループワーク】

①症例の提示 : 北見赤十字病院 患者支援センター長 上林 実

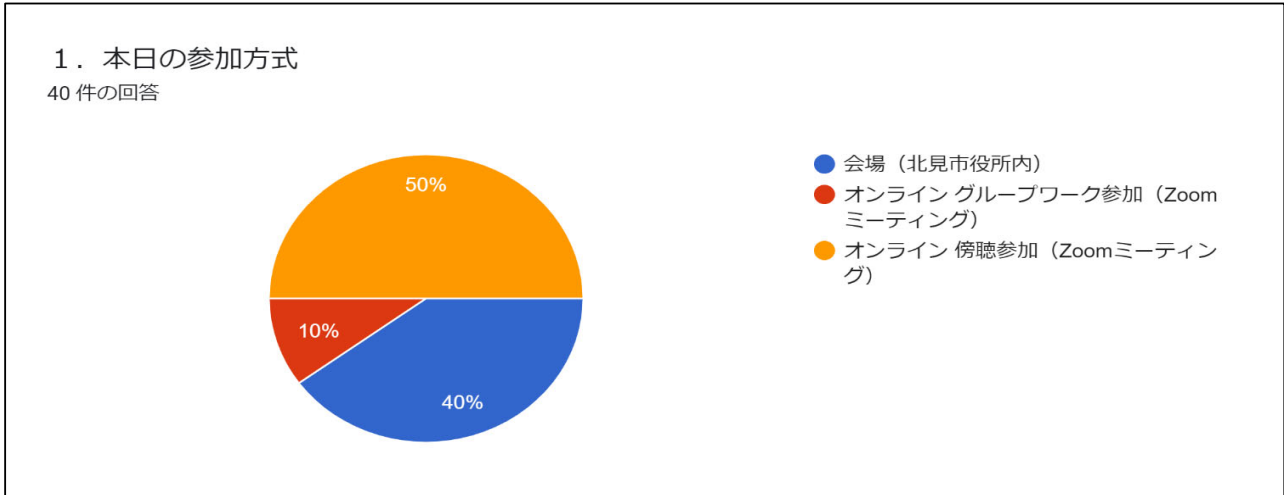
②グループワーク1

③グループワーク2

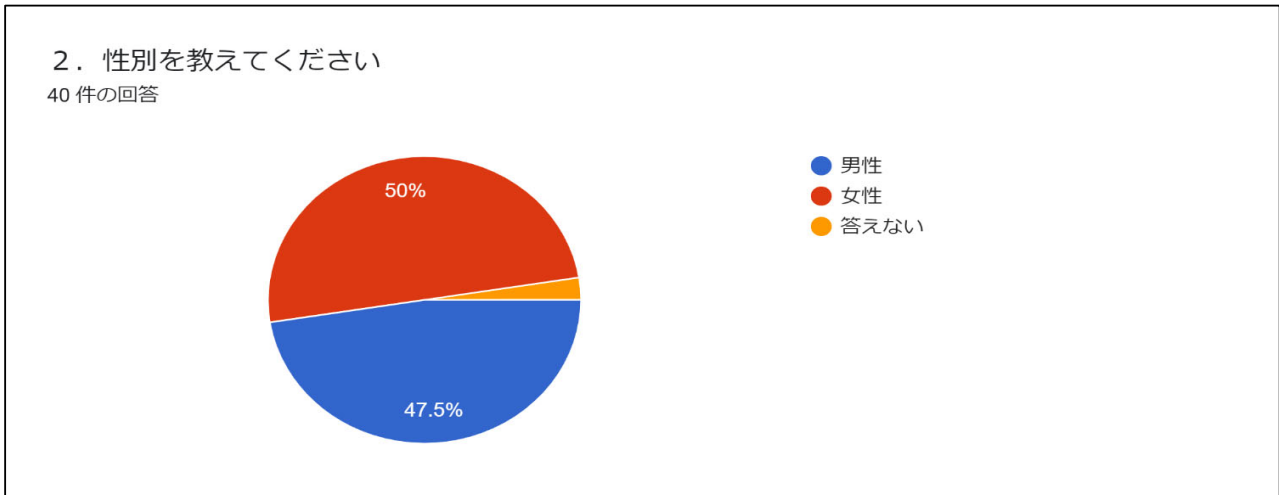
④各グループの討議発表とコメント

【閉会あいさつ】本間内科医院 理事長 本間 栄志

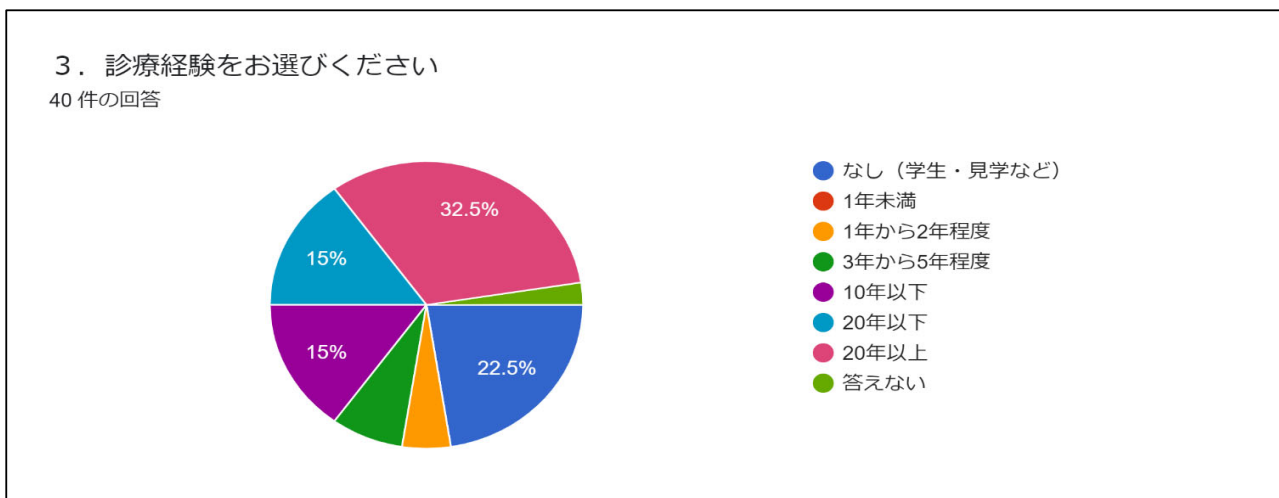
### 1. 本日の参加方式



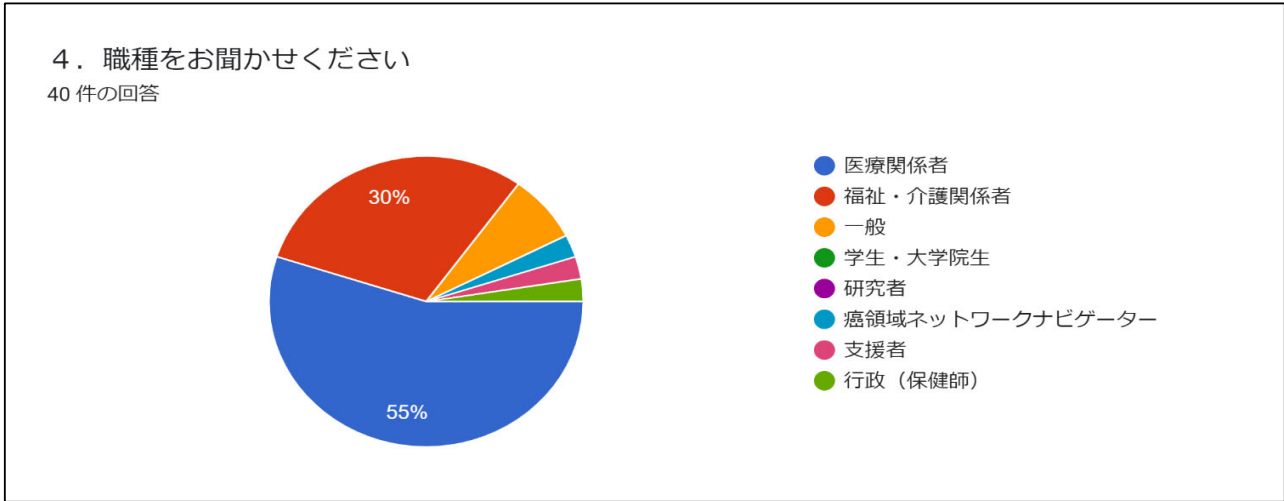
### 2 性別を教えてください



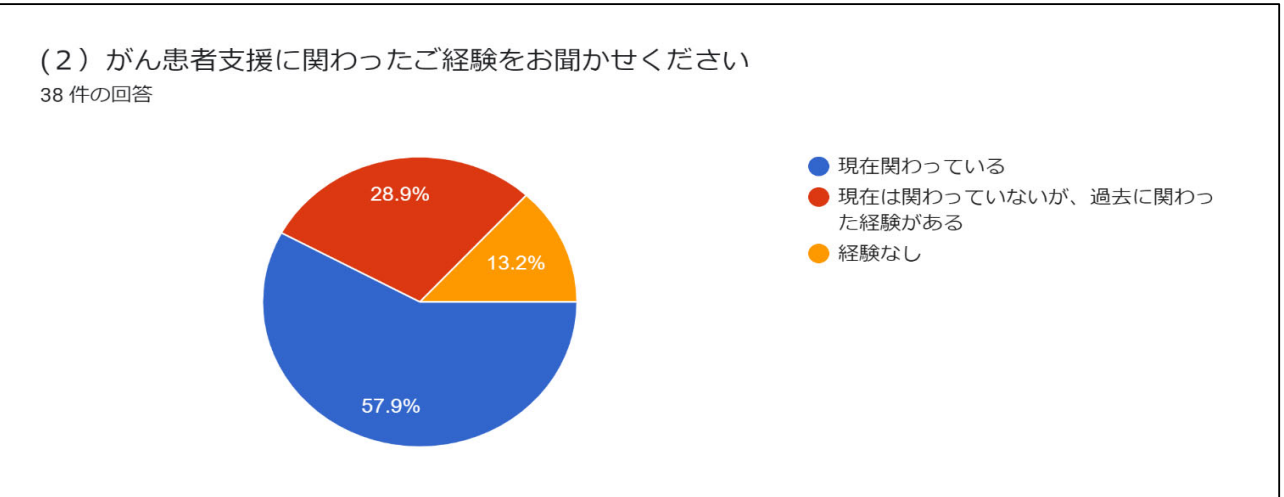
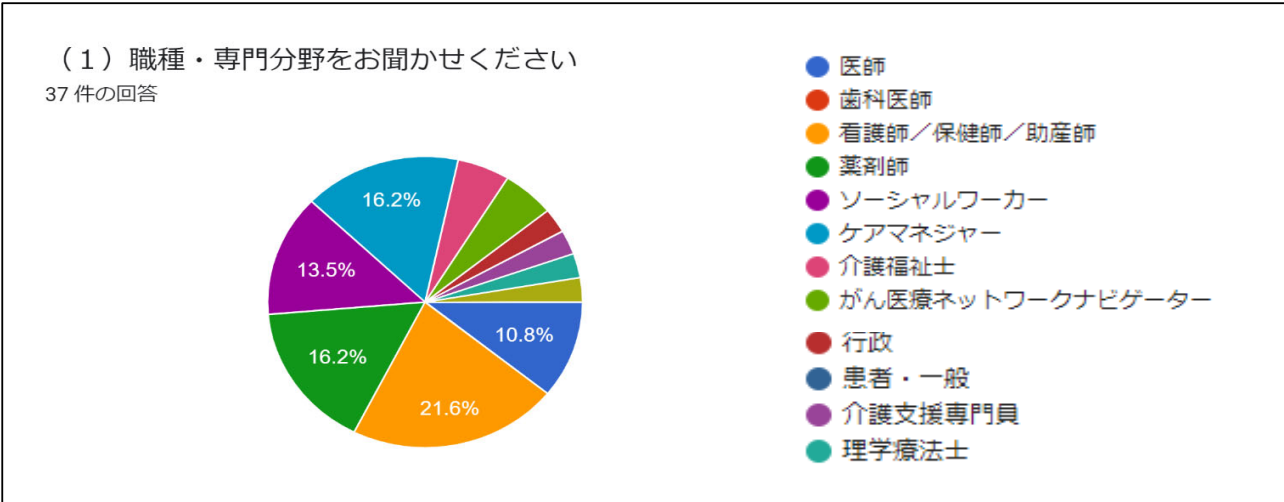
### 3. 診療経験をお選びください



4. 職種をお聞かせください

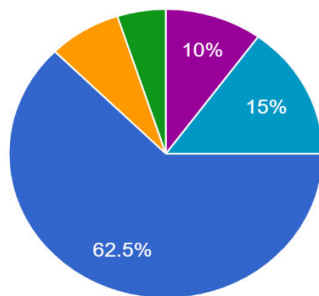


5. 上記で医療関係者および福祉・介護関係者にチェックされた方にお尋ねします



### 6. 研修会をどこで知りましたか

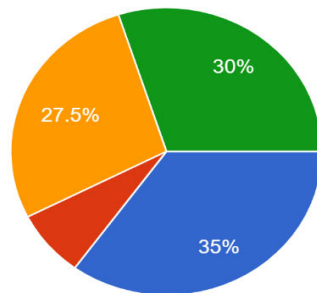
40 件の回答



- 北見市ネットワークのメール
- ポスター
- ちらし
- インターネット (がんの在宅療養のサイト)
- インターネット (その他)
- 人から聞いた

### 7. がん患者さんにどのくらいの頻度で関わっていますか

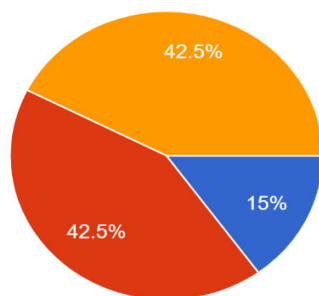
40 件の回答



- 常に (ほぼ毎日関わっている)
- ときどき (週に1回以上関わっている)
- たまに (月に1回以上関わっている)
- ほとんどない

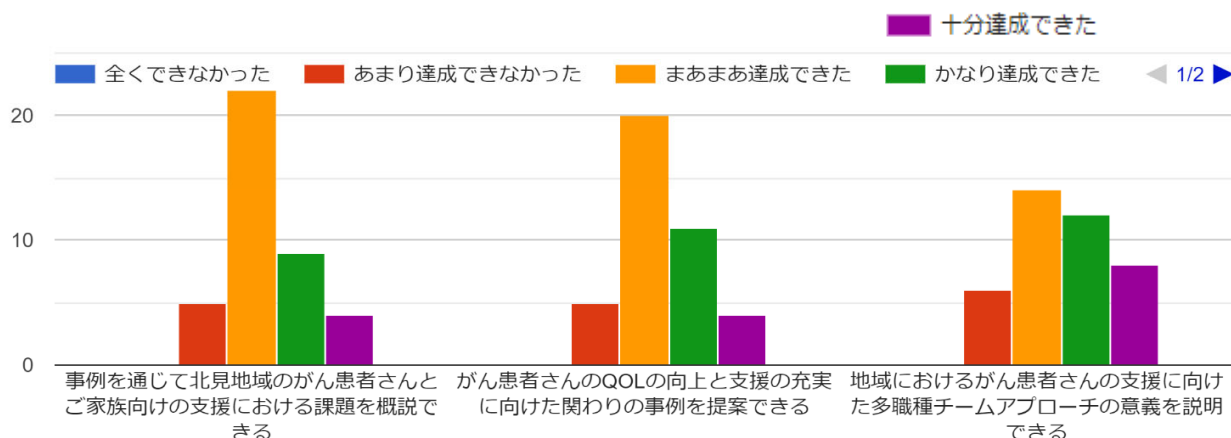
### 8. がん患者さんの支援に関する問い合わせや質問に対応できますか

40 件の回答

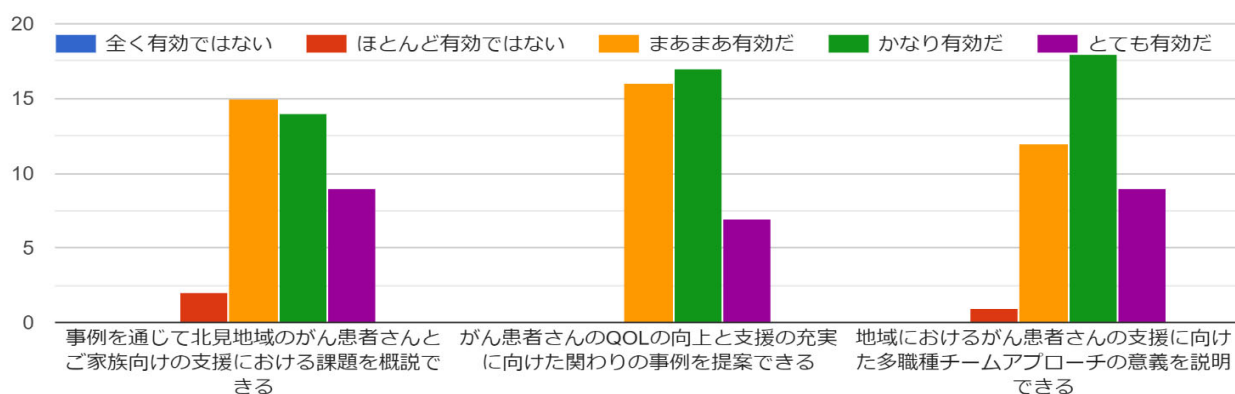


- 自信がある
- やや自信がある
- 自信が無い

9. 本日のセミナーの到達目標（3つ）について、どの程度「達成できた」と思いますか（5段階で選んでください）



10. 以下の到達目標（3つ）を達成するために、このセミナーはどの程度「有効だ」と思いますか（5段階で選んでください）



11. 本日の研修会のご感想、ご意見をお書きください。

多職種（他施設）からの話が聞けて良かった、勉強になった（6件）

とても良い取り組みだと思いました。

自身も左胸の乳がんのご利用者がおり、病状悪化時の事についてもっと本人や家族と話を詰めておくべきと感じました。本人や家族の意向の確認や安心できる選択肢を提案できるよう、知識を更に深めていきたいと思います。研修の内容は事業所内でも共有させていただきます。ありがとうございました。

事例検討会で、予め目標を提示した検討会はとても有意義なことと感じた。

今回は事例を通して多職種連携の方々の現実に即した情報が聞けました。ありがとうございました。今後また機会があればセミナーに参加させていただきたいと思いました。

本日はありがとうございました。北見地域の支援者の熱い気持ちを感じることが出来ました。またグループワークでいろいろな意見もお聞きすることが出来て今後の支援活動に有意義な情報を頂けました。ありがとうございました。

オンラインで参加させていただきました。前回よりも音声は聞きやすかったです。私は医療機関の看護師としてがん患者さんに関わる事が多く、自宅退院に向け退院調整をすることも多いので、よく遭遇する事例でした。ケアマネジャーさん、訪問看護師さんにはいつもご尽力いただいています。このようなセミナーを通して多職種の立場からの意見や顔の見える関係を作れることがとても良い機会だと思いました。本日はありがとうございました。

多角的な視点で患者さんを評価することがとても重要だと感じました。

グループワークで申し込みをすれば良かったです。

多職種の方と1つの事例について意見を出し合うことでさまざまな視点で検討することができ、楽しく学びある時間になりました。
グループワークがとても有効だったためもっと多くの居宅介護支援事業所のケアマネジャーや地域包括支援センター職員に会場に来てもらえるようにすると良いと感じました。
予想はしていましたが、グループワークに参加することで深まる研修だったと思います。
がん患者の在宅経験がないため、医療介護の経験者の方から話を聞き、ディスカッションに参加することで介護現場の実情に関して触れることができよかったです。
職種が変われば同じ患者さんを見つめる視点も変わるのだということ、それが多職種連携の強みであること、(がん)患者支援に必要なことであること、そのような自分が持っていない力を少しずつ自分のものにしたり、自分の持っている力を周りの人に伝えていくことも大切だと感じました。
2医療機関のがん患者支援の役割の違い、そしてスピード感を持ち連携していることを学ぶことができた。お互いの守備範囲を知ることは業務を円滑にする重要な要素と思うので、本グループワークは効果的だとあらためて感じる事ができた。
医師の先生方や病院内の専門職の方と直接意見交換ができるととても貴重な機会でした。連携強化にも非常に役立つものだったと思います。ありがとうございました。
症例に基づいた研修会は、非常に有意義でした。それぞれの立場への理解も深まり、持ち帰る事の出来る内容も多かったと感じました。
ケアマネジャーとして在宅で関わっていく上で、医師、看護師の説明や関わりがあるほど、不安が軽減し自宅での看取りを選択する方が増えると思う。今回の様に医師や病院側の関係者も多く参加してくれると連携し易い。日赤の上林先生が「医師も本当は、希望を持たせる様に話したいが、それでは事実を伝えられず理解を得られず今後の事を受け入れて貰えない。本人、家族に真実を伝えないとならない」と言い、感情を押さえて説明されているんだと分かりました。
多職種の方々と関われる貴重な機会だと思いますので、今後もできるだけ参加したいです。
がん患者さんと関わる事が無かったので今後の参考になりました。
グループワークを通して各職種の患者支援を知ることができた。

12. 「がん患者さんのためのチーム医療と地域連携の推進」に向けたご提案をお書きください、今後の企画の参考にさせていただきます。

顔の見えるつながりがもっとできたらいいと思います。
各支援団体単体での支援は単発でがん患者はぎりぎりまでADLが保たれ情報・支援への引っ掛かりが本人家族のみならず支援者側も難しい面があると感じています。在宅介護、医療だけではなく就労両立支援、AYA支援、小児などの各団体が繋がり、患者家族への情報提供と支援者の情報共有が図れる地域となればすてきなと思いました。
あまり取り組まれていない方々の研修会参加が進められればいいかと思いました。
院内チームだけ、連携医療機関だけではなく、患者支援団体などの地域のサービスなども、医療機関の皆様には把握していただき、互いに補い合えるようになれば良いと思う。
研修会の継続
医療機関によって退院前カンファレンスを行わない事もあり、その場合には退院後の支援に苦慮する事があることから、市内にあるさまざまな医療機関の看護師や医療連携室の方に参加してもらい連携を深められるといいと感じました。
地域で定例の症例カンファレンスを開催するのはどうでしょうか。うまくいった症例、難渋した症例…など、意見交換やエールを送り合う場を作ってみると楽しいかもしれません。
今回の症例をもとにしたグループワークは、多職種連携を学ぶにはうってつけの内容であり、機会があればまた参加したいと思える大変有意義なものでした。
スムーズな退院のためには介護認定の迅速化も重要な要素と考えます。保険者によってはがん末期の方の申請同日中に認定調査を行い、さらに直近の審査会で二次判定を行うところもあると聞くので、北見市としても積極的に迅速化に取り組んでもらえるよう、セミナーに介護福祉課の介護認定や総務等の担当者にも出席してもらい課題を共有してもらえるとよいと思いました。

参加者が少なくなったように感じましたが、連携の機会を求めている方々には有用な会であったと感じています。企画・運営するのは大変であるのは承知していますが、この取り組みは必ず大きな成果をもたらすものであると確信しています。連携の輪を広げるためにも、今後の研修会も期待しています。

過去に関わった中で再検討が必要だったり、後で別の支援の選択が良かったなどの事例。

患者様が自宅を選択しても、受け入れできる家族がない、夜間の訪問サービスがないなど家に帰れない方が多くいます。病状が悪くなったら、病院に戻れる体制も整備しながら、すこしでも長く家で過ごせる様調整ができると良いと思います。

#### 支援の困難事例の検討

今回は常日頃がん患者の支援に関わっている方の参加が多かったので積極的なグループワークになりましたが、今後は普段あまり関わりがない方やこれから関わる若いスタッフを巻き込む研修が必要だと思います。北見赤十字病院の緩和ケア研修会のように地域で定期的を開催し顔なじみを増やしていく必要があると感じました。